

講演概要

■講演 (1)

講演タイトル：「技術士倫理綱領と技術者倫理について」

講師：佐藤 光雄（九州本部倫理員会・技術士（建設・総合技術監理））

講演概要：

技術者の“しるべ”としての技術士倫理綱領と技術者教育における技術者倫理についての考察が講演のテーマである。考察のための素材として2012年国連持続可能な開発会議（Rio+20、地球サミット2012）におけるホセ・ムヒカ当時ウルグアイ大統領のスピーチを紹介し、私たちが幸せになるためにこの地球上に生まれたことを再確認したうえで、幸せを実現するために科学技術を応用する技術者としてでできることは何か、目指すべきことは何かについて整理する。具体的には技術士倫理綱領と技術者教育認定の世界的枠組みに準拠したJABEE認定基準との関連性について、幸せになるための志向・行動の三要素を切り口として整理する。そして、このことにより技術者の卵である学生、生徒が社会に出て、専門技術者としての能力を高め、社会に貢献しうる技術者となるための一助となれど考える。また、技術者倫理の必要性の背景となっている不祥事、事件・事故がなぜ起こるのかについても、心理的要因や発生要因を整理し、技術者倫理の最優先課題である公衆の安全、健康、福利の確保を実現する方策を考える。

キーワード

倫理綱領、技術者倫理、公衆の安全、行動の三要素、不正の三角形

■講演 (2)

講演タイトル：「鹿児島を西の深海魚王国に～かごしま深海魚研究会の取り組み～」

講師：大富 潤（鹿児島大学水産学部教授）

講演概要：

南北600kmの広い海面を有する鹿児島県。しかしながら、都道府県別にみた魚介類消費量は最下位に近いのが現状である。また、漁業者は高齢化しており、新規加入者が少ないために著しく減少している。このままでは県の基幹産業の一つでもある漁業は衰退する。目の前の海、錦江湾（正式名称、鹿児島湾）は半閉鎖的内湾でありながら水深200m以上の深海部分を有する日本で唯一の海であるが、その事実とそこで漁獲される魚種の詳細、海上投棄の現状を知る人は少ない。薩摩半島西岸沖の陸棚斜面域では深海底曳網によりヒゲナガエビ（通称、たかえび）が漁獲されているが、海上投棄されている混獲未利用種が多いことは知られていない。さらに、種子島・屋久島から南の島しょ域は深海魚の好漁場になっているが、その事実を知る人は少ない。深海の漁業といえば静岡の駿河湾が有名だが、鹿児島も静岡に負けない深海の好漁場が形成され、深海魚を目玉として地域活性化をはかることができる根拠を述べる。ただし、今後の展開にはストーリーのみならず相手目線のプレゼンテーションが重要であることも併せて述べる。

キーワード

漁業、うんまか深海魚、後継者、漁食文化、相手目線